

つてナ。背中へ大きな灸^{やぶと}仰山据えやがね。熱いの熱ふないので、嗚ー。熱いわーい云ふたらナ。熱
けら熱ふ無い様にしたる、さア此方へ來い云ふなり井戸端へ引摺て往て頭から水あぶせよ。冷いわ
ーい云ふたら灸や、熱いわーい云ふたら水や。焼豆腐で間違ふたんや依て焼豆腐見たいな目に逢はさ
れたんや、其處へ奥の端の妙香はんが來やはつて、喜いさん今度から氣イ附けなはれや、お松さんも
腹が立つやろけど今日の處は堪忍したげとくなはれ云ふて、俺いに煎餅二枚呉れはつた。』

『オイそんな物貰ひないナ。子供やがナ。お前等あんまり嗚にペコ／＼してるさかい其其様な目に逢
ふのや。オイ、嗚と云ふ物はナ。平常は可愛がつて、お前やなけら成らんと云ふ様に頭をさすつとい
たるネ。其變り一つ間違ふたら拳骨で頭ガン／＼と殴つて、疊へ鼻つ柱こすり附けてな、こら糞仕は
此處やぞと云ふて聽かしかかなあけへん。夫ふしといて見い。鯉煮いてたかて鼻も動かせへんワ。』

『何や猫見たいに云ふてるナ。』

『女飼ふのは猫飼ふのと同じし事や、お前等自分の嗚殴つた覺えは無いやろ。』

『いや、一遍丈けあるね。』

『一遍でも有るのんかいナ。』

『有るね。他處で一杯飲だ揚句云ひ合喧嘩して、ムカ／＼して歸て來たらナ、このノ。ロ。ン。ケ。ツ。奴、何
處をのたくつて歩いてやがねて云やがつたんや。洒落た事云ふな云ウなり金槌振り上げたんや。』

『そんな莫迦な事してどないするね。嗚に怪我さすのは我が身を傷つけると一處や、忽ち醫者や藥で
自分が貧乏せんならん。』

『處が内の嗚。中々殴らさんワ。いきなり其手に獅噛みついてナ。鳥渡待つとふ。今のは妾いの口が
過ぎたんや、これと云ふのも貴方の身を案じるさかいに云ふのやないか、今はどれ程妾いが憎いか知
らんけど、又可愛いと思ふ時も有れへんかと斯様云ひよる、成程ホンに有るなアと思ふたら殴れん物
ナ。』

『阿呆、溝へ嵌るがナ。目も見えんのかいナ。』

『……エへ、。夫婦喧嘩ちウもんは甚い面白い物だすな。……。』

『オイ羅宇仕替屋其邊へ往きんか。それ見イ。お前がシヨムない話する依てに、羅宇仕替屋が隨いて
歩いてよるがナ。』

『エへ、。もう今日は仕事休んで此續き聽かして貰ひまつさ。』

『阿呆云やがれ。講釋見たいに思ふてよる、そつちへ往きそつちへ……さア大川へ出て來た、他
の連中はもう先きに船に乗て待てるのや。……オーイ。通イ舟ー。……。』

『へーい。よーツとしヨ(大太鼓水音)……へい何卒お乗んなして……。』

『オイ清やん、こんな小さい舟か。』